

令和7年度 学校評価アンケート 考察

- ・学校全体が落ち着いており、生徒・保護者にとって「安心して学習や生活ができる学校」づくりができています。一方で教職員は「生徒が落ち着いて学校生活を送ることができている」と感じる割合が昨年度に比べて減っており、生徒・保護者と教職員との評価に差が見られる。安心・安全な学校づくりをこれまで以上に目指していく必要がある。
- ・「意欲的に授業や行事に取り組んでいる」生徒が多い。また、教職員も「分かりやすい授業づくり」を心がけていると答えている。一方で、保護者は、教職員が「分かりやすい授業づくり」を心がけていると答える割合が昨年よりも減っている。今後、家庭学習も含め、生徒の主体的に学ぶ力を育成することができるよう、教職員の研修を積み重ねていきたい。
- ・生徒の約71%が「自分にはよいところがある」と、保護者の約70%が「自分の子はよさを自覚している」と答えている。この項目については、教職員と大きな差は見られない（生徒はよさを自覚している＝約73%）一方で、生徒の約78%、保護者の約78%が「先生はよさを認めてくれている」と答えている。この項目については、教職員と差が見られる。（生徒のよいところを認めている＝約98%）。引き続き、さまざまな場で、さまざまな教職員が生徒のよさを的確に捉え、認めていくことで、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることができると考える。
- ・教職員は「学校生活の中で生徒がよさや力を発揮する場」を設けるように心がけており、約81%の生徒が「自分のよさや力を発揮でき、うれしかった」経験を味わっている。こういった場を今後も大切にし、より多くの生徒が活躍でき、自己肯定感や自己有用感を高められるようにしていくとともに、教職員の生徒のよさを見取る力を引き続き高めていき、自信をもって活動できる生徒の育成に努めていきたい。
- ・教職員は「生徒の相談にすぐに対応」しており、生徒からの相談に対応することができている。しかし、「生徒が困ったときに相談できる」ことが大切である。そのため、生徒との信頼関係を築く努力を今後も継続していく必要がある。教職員自らが「率先垂範で生徒に挨拶をしたり、『ありがとう』を伝えたりする」ことを常に心がけていきたい。
- ・生徒は「いろいろなことを相談できる友人」関係が築けている。保護者もそのことを理解し、その割合は昨年度より保護者においては増加傾向にある。生徒会が行っている挨拶運動をはじめ、人同士がふれあうような新たな企画を効果的に活用するなどして、温かい人間関係づくりに引き続き努めていきたい。
- ・生徒は「社会や交通安全、学校のルール・マナー」をよく守っている。また、教職員は「体罰や情報漏洩などの不祥事防止」に努めている。生徒、教職員共々、今後もあたりまえのことがあたりまえにできることを大切にしていきたい。ただし、自転車乗車中の交通事故が今年度も数件あった。交通安全指導には、毎年力を注いでいきたい。
- ・昨年度同様、「家族で会話ができている」家庭がとても多く大変うれしく思う。
- ・「自分の体力や健康に気を付けた生活」に心がけている家庭が多い。学校で行っている体力向上プロジェクトや食育推進プロジェクト等を今後も推進していき、家庭とも協力していきながら、生徒の体力向上や健康増進のために努めていきたい。
- ・たよりやホームページ等で日々の教育活動について知らせているが、保護者に比べ、生徒の活用が少ないことが分かった。より多くの生徒・保護者が見たくなるような工夫を今後も行っていきたい。
- ・教職員の多忙化解消に向けて業務の精選・会議の時間短縮等を進めているが、「計画的・効率的な働き方」については、更に教職員に浸透させていく必要がある。

< 学校関係者評価 >

- ・教職員が生徒を褒めてくださっていてありがたい。全体で褒める以外に個別で褒める、口頭で褒める以外に短冊等の書面で褒めるなど、生徒の自己肯定感が高まる工夫を引き続き進めていってほしい。
- ・「家族との会話」がよくできている。依佐美中学校のすばらしさである。保護者の意見は生徒がどれだけ学校の様子を話しているかが背景にある。今後も、家庭での会話を通して、学校の様子が伝わっていくとよい。
- ・生徒、保護者が、「安心して学習や生活ができる」と考えていることは、すばらしいことである。教職員には、引き続き生徒の相談にのったり、生徒との会話をしたりして、生徒を認める場と時間の確保に努めていただきたい。
- ・ホームページを通しての情報伝達は浸透するのがとても難しいが、生徒が目にする機会を増やす方法を模索し、工夫をしていってほしい。